

石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

効率的な行政と議会



1、行政の事業仕分けの威力

① 12年以上前に行われた事業仕分けの功罪

館山市行政の事業は400近くあり、議員たちは全体像を見て、各事業でも気になった点や、市民から情報提供があった点については確認しますが、なかなか各事業を細かくチェックはできないものです。

この傾向は全国でも同じであり、20年ほど前に「事業仕分け」という手法が生まれました。館山市でも2007年から2011年に行い、城山公園の孔雀園の廃止方針を提言するなど、コストカットの厳しさを感じさせるとともに、限られた財政と人員で運営されている館山市行政の効率化をもたらしました。

一方、民主党政権で行われた事業仕分けと同じように、館山市行政にも弊害がありました。事業仕分けを行う有識者は、効率性を徹底的に追及し、職員が答弁に窮する場面が散見されました。コストカットありきの傾向があり、職員が萎縮してしまった面は否めません。

② 市民判定人方式で事業仕分けの欠点を克服



令和5年度館山市事業仕分け（1日目）

今年の9月23、24日の土日に行われた事業仕分けは12年前と似ているわけですが、大きく違うのは、事業の評価を行うのを一般市民にしたことです。

仕分け人の有識者が、職員にポイントの説明を求め、改善点などを議論して、かつては、そのまま仕分け人が評価をして終わりでした。今回は、仕分け人が「議論」、参考までに仕分け人も、「廃止・縮小」「改善・拡充」などの評価をしますが、最終評価は市民が行います。

そして、効率化を追求する仕分け人の評価は「廃止・縮小」になりやすく、行政サービスの充実を求める市民は「改善・拡充」になりやすい傾向が見えました。

仕分け人だけでコストカットに傾きがちなのが、市民の民意で補正されるわけです。つまり、バランスが取れた事業仕分けになったわけです。

ちなみに、市民判定人の選び方は、ざっくり言えば、

くじ引き（無作為抽出）で当たった人のなかから、やってくれる人をお願いした形でした。この選び方だと、これまで市政に積極的には関わってきませんでしたが、関心は持っていた層を、市政の協力者になってもらうことが可能になるわけです。

③ 事業仕分けの内容と成果

例えば、「花のまちづくり事業」について、私は都市計画課が統括してやっているものだと思っていましたが、他にも3つの課で各々が独立して行なっていました。

- 市道植栽管理等維持事業→建設課（建設環境部）
- 観光地美化事業委託料→観光みなど課（経済観光部）
- 花のまちづくり事業（うち植栽事業）→都市計画課（建設環境部）
- 地区花壇運営事業→生涯学習課（教育委員会）

4つともそれぞれが、実施している目的と場所、行っている人達が違うので、ダブってはいません。ただ、「花のまちづくり」ということで、都市計画課でまとめてやるか、一つの課がコントロールタワーになって連携を取った方が効率的です。

こうしたことは、数百ページの決算書を見ている市議会議員が把握することは難しいと思います。一方、現場の市職員の間では、この非効率さを感じた者もいたようで、かつて市役所内で事業統合の協議はあったようです。しかし、連携が悪いのか、まとまらなかったと聞きます。

花のまちづくりに関しては、4つの事業を統合するなり何らかの改善をすべきという評価は、仕分け人も市民判定人も同じでした。

④ 起業支援補助金の「廃止」という厳しい評価

館山市では起業する人に、使い勝手の良い少額の補助金を出していますが、仕分け人も市民も「不要・凍結」という厳しい評価をしました。

私も廃止が妥当だと思います。理由は「起業者で利用している人が少ない」「この補助金があるから起業が増える」とは言い難いということです。また、補助金の交付と審査には職員人件費がかかります。費用対効果が合わないと思います。

⑤ 仕分け人の評価と市民判定人の評価は一致しないこともある

中軽度の障害者（障害者手帳3級など）への医療費補助についての仕分け人の評価は厳しいものがありました。

事業仕分けでは、基本的に「事業の必要性」についての立証責任は担当部署にあるようになっていきます。つまり、必要性を説明できないで、曖昧だと「不要・凍結」という評価になりやすいのです。これは明確なルールではないのですが、そういう傾向が見て取れました。

私自身は、中軽度の障害者への医療費補助は良い事業だと思っています。重度の支援はある程度充足していると考えていますが、障害者手帳3級の方々への支援は少ないと昔から感じていました。

一方、この事業を行っているのは、千葉県だと館山市だけです。他自治体でも昔は実施していて、他の障害者支援が充実してきた頃に廃止されたと見られています。

財政の仕組みからすると、館山市単独で支援をするのは負担にキツイものがあります。約3千万円の決算です。国の制度を活用する場合は、国が何割か補助をするので市の負担は少ないのですが、館山市単独だと全額負担になります。

「なぜ、館山市だけが支援しているのか？他の支援メニューと重複があるのではないか」という仕分け人からの質問に担当部署は、上手に回答ができませんでした。結果として、仕分け人の評価は低くなりました。

一方、市民判定人はさすがに「不要・凍結」と評価する人は少なく、事業自体の意義は認めるところだが、何らかの改善はあるべきという「要改善」に留まりました。

私個人としては、この事業は継続すべきと思います。ただ、国に対して財政支援を要望し、逆にこの事業を全国へと広げていく努力もして欲しいと思います。館山市が独自の意思で行っている優れた事業として。

⑥事業仕分けの評価と、政治家の判断は別

事業仕分けの立ち位置ですが、あくまで「行政内部の事業評価の過程」に留まります。この審議と評価を参考に、担当部署や財政部門が改革を行い、市長が決断し、議会が予算審査で判断します。市長や議会の考えが、事業仕分けの結果と異なっても問題はありません。

しかし、事業仕分けでは、多くの市民が参加してくれた公開の場で論点が明確化されたわけです。それを踏まえて、市長と議会はどうするかが、これからは問われます。決断とそれについての説明責任が大事です。

意見が言いづらい」という状況がありました。



②参加者は議員個々の気持ちを知りたい

議会報告会は台風やコロナがあつて5年ぶりで、初めての議員が18人中で10人だったと思います。ですから、5年前の方式で無難に行いました。

来年2月にオープンする「道の駅グリーンファーム館山」は、交通アクセスに不安があるのではないかと、改善すべきではないか等の有意義な意見も出ました。

ところで、今回は私が司会をやらせてもらったのですが、参加者は個々の議員の「考え方」を知りたがっていることを感じました。

一方、議会報告会というのは、議会（議員全体の総意）としての回答をすることが原則になっています。だから、これまで個人的見解はなるべく控えていました。しかし、そうすると無味乾燥で味気なく、市民も自由な意見が出づらくなるわけです。

今回の議会報告会では、ある程度、個人的見解を自由に述べられるような形にしていたのは良かったと思います。

やはり議会報告会は、市民の「要望」を聴いて、それを「深掘り」していくことが大事だと思います。市民の感覚はだいたい合っています。それを政策に落とし込むには、深掘りする「対話」が大事だと思います。

そのために議員も市民も自由闊達な意見交換ができる議会報告会になるように、改善の提案をしていきたいと思っています。

2、議会報告会の意義

①10月28日（土）に議会報告会を実施

私は個人的に市政報告会を年1回程度ですが、行っています。激しい質疑応答があり、参加者との意見交換は十分にできているのですが、残念ながら私1人であり、議員が複数いる場合と比べると、政策の実現可能性に劣るわけです。

館山市議会では基本的に年に1回、議会報告会を行っています。場所と時間は分かれますが、全議員が出席します。議員が多くいるわけですから、ここで有意義な意見が多数出れば、実現可能性は高まるわけです。

しかし、議会報告会の課題として、以前から「議員たちが緊張して固い」「議員が固いので、市民も固くなり、

石井 敏宏 略歴
昭和47年2月 館山生まれ。
館山二中、安房高、立教大学
法学部卒業。平成23年4月に
館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井としひろ （自宅）
〒294-0038 館山市上真倉320-2
TEL&FAX：0470-23-7738
携帯：090-1557-5515
メール ishiitoshihiro1@gmail.com
ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>